

# 梨とイチゴ 夢託す



久喜市の  
矢野さん

## 加工で新たな道も探る

### 遊休農地解消へ稲作も

【埼玉】久喜市にある  
矢野農園の8代目・矢野  
学さん（49）＝写真＝

は、妻の綾乃さん（45）と従業員5人で、梨90畝、イチゴ8畝、水稲5畝を経営。梨は主に幸水、豊水、彩玉など7品種を庭先で直売し、イチゴは紅ほっぺを栽培して直売所や道の駅、大手スーパーに出荷している。同市は県内でも梨とイチゴの生産が盛んな地域。また、埼玉県のオリジナルブランド梨「彩玉」も多く栽培されている。農産物の加工など、新たな可能性も探っている矢野さんは、2015年から梨やイチゴをアイス

やゼリーに加工。さらに県内若手農業者で運営する「梨組」に所属し、彩玉梨サイダーも販売している。「農業者のつながりを大事にしたい。サイダーを通して多くの人に彩玉を知ってもらえる機会になれば」と語る。

近年、梨農家が減っているため、引退する農業者の梨棚の解体作業などを請け負い、資材をリサイクルして新たに梨棚を作ろうと計画している。矢野さんは同市の農業

委員を3期務め、現在は農地利用最適化推進委員だ。「地域のために手伝えることがあれば、積極的に手伝いたい」と話す。

現在、農地パトロールで見つけた遊休農地を解消し、稲作に取り組んでいる。草が生え、荒れた農地の所有者に連絡し、一緒に草刈りも行う矢野さんは「地元の農地を守

っていきたい」と語る。約10年前からは、地元の小・中学校や県内の農業高校などの見学や職業体験を受け入れている。子どもたちに農業を知ってもらえる良い機会だ。後継者不足の解消にも役立たいと考えている矢野さん。梨の栽培面積を増やし早生の品種も取り入りたいと、今後の規模拡大も見据えている。